

**双葉町復興町民委員会 町民コミュニティ部会
ワークショップ 第2回 報告書**

- 日時 平成 27 年 10 月 5 日(月) 13:00～16:00
- 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室
- 参加者 別紙座席表のとおり
- テーマ 「出し合った課題について、議論を深めるテーマを決め、課題や解決策を考える」

■第1回で整理した課題の絞り込み

参加者は「1. 町民の交流機会の確保」の①から⑧の課題の中から重要と思われる3つを選択して、評価点を各1点投票した。その評価点をもとに、順位を付けたところ次のような結果となった。

第1位 「③行政区・自治会組織の在り方検討」

第2位 「①自治組織の立ち上げ促進」・「⑥交流施設の設置」

1. 町民の交流機会の確保

町の取り組み	部会の意見	評価点	順位
①自治組織の立ち上げ促進	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアが必要である。 ・自治会に入らない人もいる。 ・自治会に入りやすい環境をつくる。 	9	2
②町民有志による NPO 法人等の設立		0	
③行政区・自治会組織の在り方検討	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会相互の情報交換の場をつくる。 ・町と自治会の連携体制をつくる。 ・自治会の役割を明確化する。 ・若い世代が参加する自治会にする。 ・新しい地区（避難先）に対応した自治会の範囲を決める。 ・自治会に関する町の役割を明確にする。 	13	1

町の取り組み	部会の意見	評価点	順位
④町民主体の交流イベント企画に対する支援の仕組み構築	<ul style="list-style-type: none"> ・集まる人の輪を若い世代にも広げたい。 ・交流イベントの運営資金が足りない。 	6	
⑤各地で開催される交流イベントの情報提供			
⑥交流施設の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が一堂に集まる場を確保する。 ・交流施設までの移動手段を確保する。 	9	2
⑦復興公営住宅等の整備と合わせて集まれる場の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅をもっと早く整備する。 ・みんなが利用できる集会所を増やす。 	2	
⑧各種支援のための助成制度のデータベース化と仕組みづくり		0	

■議論に参加するテーマの選択

上記の課題の絞り込みで第1位1つと第2位2つを選択し、合計3つのテーマに絞り込み、部会員の討議参加希望を自己申告してもらった。その結果、次の3テーマに絞り込んだ。

町の取り組み	検討課題	参加者
①自治組織の立ち上げ促進	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアが必要である。 ・自治会に入らない人もいる。 ・自治会に入りやすい環境をつくる。 	栗田(要)、栗田(和) 山本、齊藤
③行政区・自治会組織の在り方検討	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会相互の情報交換の場をつくる。 ・町と自治会の連携体制をつくる。 ・自治会の役割を明確化する。 ・若い世代が参加する自治会にする。 ・新しい地区（避難先）に対応した自治会の範囲を決める。 ・自治会に関する町の役割を明確にする。 	岡村、吉田、舘林 渡邊
⑥交流施設の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が一堂に集まる場を確保する。 ・交流施設までの移動手段を確保する。 	笠原、林、行徳 白岩、高田

■ワークショップ成果の発表

◇グループA

部会員：栗田（要）、栗田（和）、山本、齊藤

テーマ：「自治組織の立上げ促進」

発表の要点

- 参加者が高齢者中心に固定化している。
- 現在生活している地域の自治会やコミュニティを重点にしている人もいる。
- 核家族化や介護等の家庭の事情もあり、自治会に参加しない。
- 身近に親しい人がいれば、それで十分ではないか。
- 自治会は強制するものではない。
- 自治会に入るメリットを明確にしてほしい。
- 遊び、お茶飲み、伝統芸能などの楽しい活動の方が人は集まる。
- 身近な仲間から、きっかけを作って、広げていく。
- 自治会の名前を変えてみてはどうか。
- 若い人が集まる場をつくるのが大切だ。

【カードに書かれた意見】

課題

《参加しない理由》

- 自治会の活動への参加者が65歳ぐらいで固定化している。
- 自治会の活動へ来る人たちが決まっている。
- 自治会の加入者は40歳以上が多い。若い人はLINEでつながっている。
- 自治会へは行きづらくて参加しない。
- まごころ双葉会に入っているイベントに参加しない。行きづらい。
- 自治会でいやな思いをする人は、かえって縛られない方がいいのかも。
- 何か問題があると双葉郡の人のせいにされてしまう。
- 自治会の活動へ必ず行かなければというプレッシャーがあることも。
- 第2・4金曜日の日中に自治会の集まりがあるが、若い人は集まらない。
- 自治会に誰がいるかによって入りづらい。
- 自治会長一人の意見だけでなく、色々な人の意見で決める方が良い。
- 地域の人に何を話しているか気にされる。
- 仮設は行きづらい。特定の人で組織化されている。
- 双葉の自治会に入らず、現在生活している地域の自治会を重点にしている。

《家庭環境での問題》

- 核家族化しているので余計に自治会に入らない。
- デイサービスを受けている身内がいると、自治会へなかなか参加できない。
- 家族の都合もある。

《心のケア》

- 仮設住宅の住民は、一人出て一人出て（少しずつ住民が少なくなると）焦りがでるのでは？
- 社協もケアをしてくれている。安心感が大事。
- 身近に親しい先生（医者）や友達がいることが大事。
- 高齢者や子どもの心のケアは、近くに友達がいればよい。
- 今が楽しいという雰囲気づくり。

《そもそも》

- 自治会は強制するものではない。
- 自治会に入らないのは問題ではない。
- 自治会のメリットを明確に。

これが大事

《イベントで集まる場をつくる》

- 全ての自治会のイベントに参加しなくてもよいのでは。
- 震災前にあった3世代ゲートボールを復活させたい。
- 町民体育祭などに子どもたちが参加していた。
- 遊び、お茶飲み、伝統芸能をやろうという方が集まる。
- 町民ゴルフ大会を5年ぶりに開催し、50人くらい集まった。集まれる良い場だ。
- 世代別交流会をぜひ夜もしてほしい。
- だるま市に6,000人集まっている。
- 自治会同士での旅行や遊びでつながるのが良い。

《集まりやすい環境づくり》

- 自治会へ自然に入る場づくりが大事。
- 自治会がいろいろやって動き出しているのを感じて、周りの住民も集まっていけばよい。
- まずは身近な役員で集まって楽しむことで、それを見て周りの住民が集まる。
- 同じ課題を持ちやすいママ世代が集まるのは仕方がない。

- きっかけがあれば自治会へ入りやすい。
- 南相馬はみんなが集まる施設がある。婦人会があり、うまくいっている。
- 自治会のネーミングを変えてもよいのでは。(まごころ会、さくら会、しゃべろう会)

《自治会以外のコミュニティの存在がある》

- 学校とは違う社会の場で教育を。
- 今のコミュニティの継続でよいのでは。
- 子育て世代は学校でつながりを作っている。
- 他で、既に個人でコミュニティを形成している人もいる。
- 自治会外の趣味などでつながっていれば良い。
- 新しい地域へ行っても、近隣の人たちとの交流はない。
- 自分たちも地域（避難先）へ入る努力を。

《情報整備》

- 双葉町の自治会が何かやってくれていると感じられることが大事。
- PRが足りないかもしれない。
- 年1回の健康診断でこんな人もいたと気づく。これも情報不足か。
- 集まっている時はいいけど、また家に帰ると（気持ち）暗くなってしまう。

《若い人への対策》

- 若い人が集まれるしゃべり場を作ってみては。
- 若い人（少しやんちゃ）に場を提供したら、ちゃんと使用する。
- 若い人のエネルギーが発散できる場に。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 心のケアが必要だ。
- 仮設住宅から人がだんだん出ていき、個人的な焦りがでているのではないか。
- 借り上げ住宅に入っており、自治会はあったが、家族の都合だったり、趣味の会の練習に行ったりしたため、自治会に参加していない。
- 自治会に出てこない理由のアンケートを取ったほうがよい。
- 自治会長が一人で訪問するのではなく、複数で訪問するとコミュニケーションが取りやすいかもしれない。
- 自治会長への協力体制が必要。
- 町民ゴルフ大会が開催された。みんないい表情をしていた。
- 双葉ふれあいクラブが4年ぶりに再開された。このようなクラブを利用して、顔を出しづらい状況を改善してもらえればありがたい。

《サポーター補足》

- 自治会に入らないのはなぜかなどマイナスの話から入ったが、そうではなく自治会は成り立っていて、家族の問題などの個人の問題があるとの話になった。
- 自治会のメリットをきちんとしていかないといけない。
- 双葉ふれあいクラブのイベントで、ゴルフとか飲み会とかの切り口がいい。

■グループAのまとめ（金子氏）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 難しい問題で、出てこない人は今のままでは出てこない。● 自治会の活動を「ケアをする活動」と「コミュニティ活動」とに分けて整理し、考えた方がよい。● コミュニティ活動を通じて、遠隔地とつながっているところもある。● 伝統芸能、スポーツ、特産品、同窓会などコミュニティ活動で楽しく結束を強めていけるのではないか。 |
|---|

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇グループB

部会員：岡村、吉田、館林、渡邊

テーマ：「行政区・自治会組織の在り方検討」

発表の要点

- 自治会同士の情報交換を活発化する。
- 連携共有会の情報を町民に伝えるとともに、町に提言していく。
- 自治会ごとに集まることのできる場を、空き家などを活用して確保する。
- 自治会への参加を促進するために、会員名簿などを工夫する。
- 若い世代を役員にして、若者の参加を促進する。
- 自治会の入会を世帯単位から個人単位へ転換する。
- 楽しいイベントを企画して、人を集める。
- イベントなどのために予算を増額してほしい。
- 自治会は会費を集め、収益活動をして、自ら財源を確保する。

【カードに書かれた意見】

《自治会相互の情報交換》

- 自治会の在り方について話せる人が同じ会の中に少ない。
- 自治会長や副会長は、年に1回しか会っていない。
- （自治会長等の会議が）年に1回では足りないので、もっと回数を増やすべきだ。
- 年1回の会議は、会長決めや予算についてのみ審議している。これとは別の内容の会議をひらくべき。
- 自治会同士の交流会をする。
- 自治会組織だけにこだわらず、他のグループなどと情報交換する。
- 自治会館の利用料金が町に申し込むとタダになるが、自治会費から払っているところもあるので、お得な情報は共有すべき。
- 復興支援員は情報を持っているから情報ツールにする。
- SNSなどに各自治会でしている取り組みを上げて（掲載して）いく。
- 自治会役員版と自治会住民版のSNSをつくる。
- 閲覧対象者を役員に限定するなどして、活動や現状を頻繁に知ることのできるネット上のページをつくる。
- 情報提供については、タブレットと直接訪問でしている。

《町と自治会の連携体制》

- 自治会に関する町の役割を明確に。
- 現在、連携共有会で町、役員、復興支援員などは情報共有している。
- 連携共有会の情報を住民レベルまで共有する。
- 連携共有会の意見を町に提言できるよう自治会権限の強化が必要。
- 自治会の役割を明確化。
- 役員への報酬(手当)が低すぎる。
- 地域によって自治会からのアプローチの方法、行政の受け入れ方が違う。
- 自治会またはそこにある行政によって、仕組みが全く異なっている。
- 情報交換することで、各自治会の意見が一つにまとまる。それを町に提言することで共通した連携ができる。
- 自治会組織の格上げをする。

《場所の確保》

- 各自治会の情報を共有する場所がない。
- 自治会の集会所は空き家等を活用する。
- (集会所などに) 行きたいと思ったら来る。行きたいと思える場所をまず確保すること。組織があるだけではだめ。
- 使われていない場所があるはず。空き家対策としても町から集会所を提供してもらおうべき。

《自治会の入会を促す》

- 会員名簿(個人情報の提供が可能かを確認してから作成したもの)を送ってから直接連絡する。
- 景品を民生委員が持参し、自治会入会を促している。
- 参加した人の名前をチラシで周知したら来る人も増える。逆に苦手な人もいるから来ないという可能性も。

《若い世代の参加》

- ママカフェやはなみずき婦人学級などの会に必ず入ってもらおう。
- 若い世代に役員になってもらおう。
- 若い世代が役員をしやすいように土日に役員会をひらく。
- 子どもが集まれるイベントへの費用を出してほしい。
- 自治会の在り方として、世帯ごとではなく一人ずつカウントしてほしい。

《新しい自治会》

- 自治会を魅力的にする。
- 情報の共有。
- 集まれる場所をつくる。
- 自治会に必要なものは、イベントと費用だ。
- 楽しいイベント。予算も伴う。
- 予算の増額が必要である。
- 会員もお金を出す。行政もお金を出す。
- 自治会同士の交流が町民の交流拡大につながる。
- 年齢に応じた自治会内の組織をつくる。
- 避難先自治体と連携。
- 野菜、手芸の販売等、自らが儲ける(稼ぐ)自治会になる必要がある。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 新しい自治会を作るには、自治会を魅力的にする。
- 避難先自治体との連携が必要だ。
- 最終的には、自治会が大きくとか小さいとかではなく、集まれることが大事だ。

■グループBのまとめ（金子氏）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 町役場による経営から自治会による経営を模索する段階ではないか。● コミュニティ政策は自治会が担当していくという考え方もあるのではないか。 |
|---|

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇グループC

部会員：笠原、林、行徳、白岩、高田

テーマ：「交流施設の設置」

発表の要点：

- 行政の支援を受けるためには、自治会やNPOのパワーアップと法人化を検討する必要がある。
- 自治会のトップとなる人材がなかなかいない現状がある。
- 県外においては、8町村が連携して、県のとりまとめのもとに、避難住民が共同利用できるような施設の利用支援や整備に取り組んだらどうか。
- 県内の郡山などの地区においては、施設の一元化を促進し、管理を町が行うとともに、町民を管理人として活用してほしい。
- いわき市内においては、8町村が共同して、2か所程度の交流施設を整備してはどうか。一方で双葉町民だけの集会所もほしい。
- 町と支所、自治会やNPOなどの役割を明確に整理してほしい。

【カードに書かれた意見】

《自治会・NPOのパワーアップ支援》

- 自治会やNPOを活性化するための支援がほしい。
- NPOと比較して自治会はなかなか支援を受けられない。
- 行政は法人化していないところに資金を提供しない。
- 自治会を法人化することは難しい。
- トップ（自治会長等）となる人もいないため、意見もまとまらない。行政の協力が必要だ。
- 浪江町は二本木地区でNPOが100円タクシーを運行している。双葉町には昔100円タクシーがあった。
- 下神白地区では、23戸で自治会が立ち上がったが出席するのは4名くらいである。

《県外では8町村で共同提案に取り組んではどうか》

- 仙台市で双萩会を立ち上げ、自治組織の認定を受け、仙台市の施設利用の費用減免措置を受けることができている。
- ある任意団体は、青葉区役所の公共施設を利用して、2時間程度のお茶会を複数自治体の20名程度が集まり活動した。しかし青葉区の支援は打ち切りとなり、現在は西本願寺で活動している。
- 福島県の県外避難者支援事業に、複数町村の共同利用施設に対する支援を申請したが、却下された。

- 県外において集会施設を複数町村で利用できるように、県が確保または整備してくれるとよい。
- 県外では広域市町村が連携して事業に取り組めるように、県はまとめてほしい。

《県内では町の一元的な施設整備に期待》

- 郡山市では、交流施設や支所などを一元化した場所を作ってほしい。
- バスは復興公営住宅、病院、拠点、駅などを巡回するとよい。
- 一元的な施設の人件費、施設管理費を町が負担してほしい。
- 施設管理の人員は町民が臨時職員となって運営する。

《いわき市内では8町村で共同化》

- 8町村が一緒になって、いわき市内2箇所に一元的な交流施設をつくる。
- 現在、集会所を4町で使っているが、双葉だけの集会所がほしい。

《町と自治会の役割》

- 震災前は、町、大字会、隣組の階層で自治が動いていた。現在は、町の下に支所、そして多様な自治会があり、役割や権限があいまいだ。
- これから町の支所機能を拡充する。その下に自治会をおく。
- 郡山のせんだん広場は自治会がつくった。今後も継続してほしい。
- 自治会については、ひとつの案にまとめて、共通認識を持つことが必要だ。そうでないと進まない。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 自治会の位置づけをはっきりして、町が強力な支援管理体制を作り、町役場が前面に出ていかないと、交流施設の設置も難しいのではないかな。
- いろんなイベントやるなかで、せんだん広場の経営がお手本かと思っていた。経緯を聞いてためになった。
- 町民コミュニティ部会が自治会の話ばかりになっている。コミュニティは自治会だけだろうか。コミュニティは全部自治会がやらなければならないだろうか。町にも考えて欲しい。
- 私のところは自治会がようやく立ち上がったところ。集会所まで行かなくても、毎日のように、駐車場とかに自然に集まって話をしている。

■グループCのまとめ（金子氏）

- 分散して避難している住民を自治会が支えている。自治会の法人化や一部行政機関化（自治会を行政機関として特定の権限を行使させる）の話に今後なっていくのではないかと。
- 自治会には担っていく人材がない。自治会人材の公職化・有償化も検討の必要がある。沖縄には自治会長を選挙で選ぶような例がある。
- 県外では双葉郡8町村の共同事業をやっている例もある。県がイニシアチブをとってもっとやっていく必要もあるのではないかと。

グループワークの様子



発表の様子



ワークショップの成果



◇学識経験者 間野先生からの講評

今回初めて町民コミュニティ部会に出席したが、私もなぜ自治会ばかり議題になるのかという思いに共感した。コミュニティは自治会問題ばかりではない。もう少し幅広くとらえる必要がある。

「私は自治会に参加していないが、ほかの方法で、皆と繋がっていて、元気にやっている。」という話もあった。これは、テーマ・コミュニティと違って、やりたいことで集まるのというものである。これも含めて発展させていけないといけない。

自治会にも二つ役割がある。双葉町の町民の絆を維持していく機能と、みんなが元気で避難生活を送れるようにする機能である。この二つを整理しながら議論していったらいいのではないか。

「絆」と「元気」の両方を考えると、町民全体のイベントに関しては、町が全面的にバックアップしていく必要がある。

町と自治会の関係が重要なポイントである。(被災前は)もともと行政区単位での自治会があったが、今は行政区単位で避難しているわけではないので、それとは別の自治会ができている。町としても公式の組織として認めて支援していく必要があり、どのように支援していくのかというのを考えていただきたい。

最後に、5回のワークショップのなかで議論できるかわからないが、長期ビジョンにあるとおり、両竹・浜野地区に復興産業拠点ができってくる。人が住むのはまだ先だが、復興産業拠点の中に交流センターを作るという計画があり、産業拠点だけではなく、町民が交流できるような場を作ろうという計画になっている。そこに、どのような施設があったらいいかというのを町民コミュニティ部会でやってもらったらいいと思っている。

◇学識経験者 丹波先生からの講評

広域的に避難しているため、自治会の意義が問われている。参考として、火山噴火した三宅村が各地に広域避難したが、3人集まったらどんな活動でも支援をするということをやった。

双葉町という単位でなくて、他の7町村と連携して、同じ避難生活をしているところと、機能の共同化を考えていけないといけない。町だけではなく、県や国も含めた仕組み作りをどのようにしていくかが課題だ。

第2回双葉町復興町民委員会 町民コミュニティ部会座席表

(敬称略)

資料2

1 日時 平成27年10月5日(月)13:00~16:00

2 場所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

市物産会場

アドバイザー	アドバイザー
県立広島大学名誉教授 福島大学つくしまふくしま 未来支援センター特任研究員 間野 博 福島大学 行政政策学類准教授 丹波 史紀 福島県生活拠点課 黒海 潔 主任室長 福島県避難地域復興課 八巻 正則 主任室長	副町長 半澤 浩司 教育長 半谷 洋 教育総務課長 今泉 祐一 総務課総括参事 武内 裕美 秘書広報課長 志賀 公夫 生活支援課長 志賀 健 住民生活課長 松本 信英

パネル

ファシリテーター	ファシリテーター
グループA 白岩 勇夫 笠原 悦夫 縮林 孝男	グループB 吉田 俊秀 渡邊 浩二 高田 秀文 岡村 隆夫

ファシリテーター	ファシリテーター
グループC 林 良子 齋藤 恒光	栗田 和子 栗田 要

観覧コーナー

事務局	事務局(復興推進課)
七尾(通財) 夕城 一 復興	藤 本 崇 松本 奈々 米山 治介 細澤 界 網 藤 孝紀 平 邦弘

受付

報道関係者の陣席

グループワーク時のグループ

グループA:
栗田(要)、栗田(和)、山本、齋藤

グループB:
岡村、吉田、館林、渡邊

グループC:
笠原、林、行徳、白岩、高田